

産地戦略

実施期間 令和7～11年度

実施主体 グリーンないちご栽培研究協議会
都道府県 岐阜県
対象地域 岐阜市、羽島市、各務原市、山県市、瑞穂市、本巣市
対象品目 いちご



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

岐阜地域のイチゴ生産では、ハダニ類防除についてカブリダニ類による生物的防除が以前より取り組まれ、現在は多くの生産者で定着した防除技術となっている。近年、地球温暖化による気象変動がイチゴ生産にも大きな影響を及ぼしており、害虫の多発、発生の早期化が生産上の大きな課題となっている。カブリダニ類放飼により使用できる農薬が制限される中、同一系統の薬剤が連用される傾向にあり、害虫の薬剤抵抗性発達が懸念されている。また、繁茂状態の株では農薬散布しても株の内部まで薬液がかかりにくく、特に微小害虫については一度発生すると農薬散布だけでは抑えきれないことが多い。農薬散布を繰返し行うことは肉体的負担が大きく、害虫発生の多くなる3月以降は収穫・調製作業に追われ、防除適期を逃すことも多い。

以上のことから、今後イチゴの高品質かつ安定した生産を持続するため、化学的防除に替わる防除技術の更なる導入を行い、環境負荷低減と省力化を図る。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	収穫・調製					いちご定植			収穫・調製				
技術名	■ ストノバ水和剤	■ ストノバ水和剤				※カブリダニ類発生時、シバノバ水和剤	※カブリダニ類発生時、☆カブリダニ	■ ☆カブリダニ + ☆ミカバダニ ■ フロニド顆粒水和剤 + ルフィロン乳剤 ■ ☆カブリダニ ※カブリダニ多発時 リ放飼前にアミノピル水和剤					・現行防除暦(11月～5月)のハダニ類、アザミウマ類、アブラムシ類、コナジラミ類、ホコリダニ類対象の農薬名を記載 ・※は対象ほ場のみ ・■は時期、☆は生物農薬

グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	収穫・調製					いちご定植			収穫・調製				
技術名						※アザミウマ類多発ほ場侵入抑制壁準備	■ コレマンアブラハチ①回目 ■ ☆コレマンアブラハチ②回目 ■ ☆カブリダニ + ☆ミカバダニ + ☆クワダスダダニ + ☆ミカバダニ ■ ☆カブリダニ ※カブリダニ多発時 リ放飼前にアミノピル水和剤						・※は対象ほ場のみ ・■は時期、☆は生物農薬

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R3	目標R11	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	18	▶ 18	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	0	▶ 9	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	0	▶ 9	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	0	▶ 9	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	化学合成農薬散布による防除	物理的防除による害虫侵入抑制	・化学農薬の使用回数、使用量削減、それによる人、環境へのリスク低減 ・害虫の殺虫剤抵抗性発達の抑制 ・農薬散布作業の労力削減
環境 省力	・化学合成農薬散布による防除 ・ハダニ類のカブリダニ類による防除	ハダニ類以外の微小害虫の天敵による防除	・化学農薬の使用回数、使用量削減、それによる人、環境へのリスク低減 ・害虫の殺虫剤抵抗性発達の抑制 ・農薬散布作業の労力削減

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境 省力	アザミウマ類の防除(成分)回数（11月以降）	4回	▶ 2回以下	スピノサド水和剤の使用を1回に削減。 ルフェスロン乳剤の使用は0～1回。
環境 省力	アブラムシ類、ホコリダニ類の防除(成分)回数（11月以降）	2回	▶ 1回以下	シエノピラフェン水和剤の使用を削減。 フロニカミド顆粒水和剤の使用は0～1回。
環境	アザミウマ類のスピノシン系薬剤による防除回数（成分回数）	3回	▶ 1回	防除暦のスピノサド水和剤2回、スピネトラム水和剤1回をスピノサド水和剤1回に削減

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）
* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

生産者部会主催の研修会、個別巡回指導等で、本事業で検証した技術の周知および技術指導を行い、普及・定着を図る。

関係者の役割

関係者名	各地域いちご生産部会*	岐阜農林事務所		
役割	・研修会開催、情報発信	・技術指導		

* :岐阜市園芸振興会いちご部会、羽島市いちご振興会、各務原市園芸振興会いちご部会、伊自良苺生産組合、本巣いちご部会

その他